

🗣️ カプセル内視鏡について

カプセル内視鏡は、カプセル形状の内視鏡を飲み込んで行う検査で、大腸用と小腸用があります。カプセル内視鏡は、腸内の蠕動運動でゆっくりと体内を進み、粘膜の状態などを撮影した後、排便時に自然に排出されます。

大腸カプセル内視鏡



実物大

- ・カメラ（前後2つ）
移動速度を判断し、毎秒4枚または35枚で撮像
視野角：172°×2、最小検出対象：0.1mm
- ・LEDライト（フラッシュ機能）
- ・内蔵バッテリー
- ・画像データ送信機
- ・長さ31.5mm × 直径11.6mm

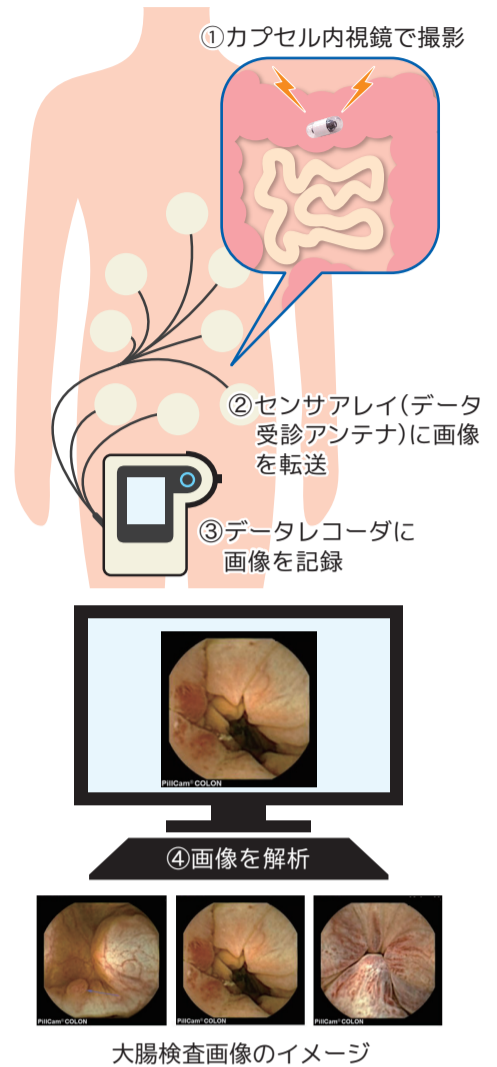
小腸カプセル内視鏡



実物大

- ・カメラ
移動速度を判断し、毎秒2枚または6枚で撮像
視野角：156°、最小検出対象：0.07mm
- ・LEDライト（フラッシュ機能）
- ・内蔵バッテリー
- ・画像データ送信機
- ・長さ26mm × 直径11mm

検査のイメージ



🗣️ カプセル内視鏡の保険適用

保険適用について、小腸カプセル内視鏡は2007年10月に一部の検査が適用となり、その後、2012年7月には小腸疾患全般の検査に適用範囲が拡大しました。大腸カプセル内視鏡は2014年1月に適用となっています。

以下のようなケースが保険適用(※)となります。詳細はご確認ください。

(※) 診察時に最終判断いたします。場合によっては適応外となることがあります。

大腸カプセル内視鏡の保険適用

大腸に疾患が疑われる場合で、腹部の癒着などで大腸内視鏡ができなかった、またはできないと予想される患者。

小腸カプセル内視鏡の保険適用

胃や大腸カメラでは原因がわからない消化管出血がある、またはクローン病や小腸腫瘍、寄生虫などを疑う患者。

🗣️ カプセル内視鏡検査の流れ

事前受診	消化器科を受診、検査の適応判断、検査の説明、検査日の調整 など	
検査種類	大腸カプセル内視鏡	小腸カプセル内視鏡
検査前日	<ul style="list-style-type: none"> ・消化の良い食事 ・食後に下剤服用、19：00以降絶食 	<ul style="list-style-type: none"> ・消化の良い食事 ・20：00以降絶食
検査当日	<ul style="list-style-type: none"> ・腸管洗浄液を飲む ・予約時刻に来院 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約時刻に来院
	<ul style="list-style-type: none"> ・センサアレイを貼り付け ・データレコーダを装着 ・カプセル内視鏡を飲み込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に留まる必要はなく日常生活復帰可 ・排便時にカプセルの排出を確認 ※カプセル排出まで約8時間 ・検査終了 ※翌日、検査機器を返却
結果説明	約2週間後に消化器科を受診、検査結果を説明	

★紹介元医療機関へは診療情報提供書、レポート、画像データ(動画)などをお渡します。

🗣️ カプセル内視鏡のメリット、デメリット

メリット

- ①検査時の物理的、精神的苦痛の軽減
- ②被ばくの心配がない

以下は医師の判断や疾患の種類によります

- ③検査中の制約が少ない
- ④保険適用である
- ⑤従来の内視鏡検査が困難な症例に実施できる

デメリット

- ①病変を発見しても切除や組織採取ができない
- ②カプセルの滞留が起こることがある

●消化管開通性評価について

消化管が狭くなっているなどのリスクがある場合は、事前に消化管開通性確認用カプセルを使用して通過確認を行います。

消化管開通性確認用カプセル
(実物大)

